

今回より細菌検査関係シリーズにします。

今回は検査の前の院内感染対策の基本についてです。

まずは、一番の基本 手洗いについてです。

(1) 手洗いの概説

手指に存在する微生物は皮膚常在菌(定住フローラ(resident skin flora))と皮膚通過菌(一過性フローラ(transient skin flora))に分けられます。常在菌は、皮脂腺、皮膚のひだなどの深部に常在しており、表皮ブドウ球菌などのCNS(coagulase-negative staphylococci)が含まれ、消毒薬による手洗いによっても除去しきれません。

通過菌は皮膚表面、爪などに周囲の環境より付着したもので、大腸菌等のグラム陰性菌や黄色ブドウ球菌等のグラム陽性菌など様々な微生物が含まれるが、石鹼液と流水でほとんど除去ができます。

(2) 手洗いの種類

日常的手洗い(social handwashing)、衛生的手洗い(hygienic handwashing)、手術時手洗い(surgical handwashing)の3つに分類され、病院感染予防策として行われる手洗いは衛生的手洗いです。

1) 衛生的手洗い(hygienic handwashing)

【目的】

主に医療において病院感染の予防策として行う手洗いであり、皮膚通過菌のほとんどを除去することを目的とする、これを行うことにより手指を介した接触感染を防止することが最終的な目的です。

【方法】

正しい手洗い手順を守り30秒以上の時間をかければ、石鹼液と流水による手洗いでほとんどの通過菌を除去することが可能です。微生物により高度汚染されていると思われる場合などには、速効的な殺菌力のある消毒薬を用いて行います。

① スワブ法(清拭法)

ガーゼや脱脂綿などにアルコール系消毒薬を染み込ませて、皮膚の表層の雑菌をふき取る。消毒薬としては、消毒用エタノール(CPワイド)がある。消毒薬をたっぷり付けることが重要で、皮膚と消毒薬の接触時間が十分でなければなりません。



② スクラブ法(洗浄法)

石鹼液や消毒液を手に取り揉み洗いをすることで、微生物を乳化して機械的に病原体を取り除く。その後、20秒間程度の流水で洗浄を行います。



③ ラビング法(擦式法)

エタノール含有速乾性手指消毒薬によるラビング法は、簡便に確実な除菌を達成できる方法です。エタノール含有速乾性手指消毒薬の使用法は、指先の爪の間から手首まで手指全体をぬらすのに十分な量(約3ml)を手取る。手洗いの順序に従って、掌、甲、指先、爪の間、指の間、親指、手首をよく擦りこむ。



2) 日常的手洗い(social handwashing)

日常生活において、食事の前やトイレの後などに行う簡易な手洗いです。この手洗いによっても通過菌の一部を除去できるが、この手洗いの本質はあくまでも物理的な汚れと汚れに含まれる微生物の除去です。流水のみの場合、石鹼液を用いる場合があります。

3) 手術時手洗い(surgical handwashing)

【目的】

手術など侵襲的な手技の前に行われる手洗いであり、最も衛生水準の高い手洗いです。消毒薬を使用して通過菌はほとんど除去し、常在菌も可能な限り減少させることを目的としています。

【方法】

手術前の手洗いは常在菌の減少まで目的としているため、洗浄成分を含有する消毒薬(4%クロルヘキシジンスクラブ・75%

ポピドンヨードスクラブ)とブラシを用いて行うことが多いですが、ブラッシングによる手指、皮膚表面の損傷が手荒れなどを招きかえって微生物数を増やす原因となりえるという観点から、消毒薬で十分揉み洗いをした後に速乾性手指消毒薬を用いるなどの改良法も採用されています。



手洗いをしましょう。(下記手順)

